

9月 <small>例会 個人</small> 山行報告書		報告者	江頭	参加 メンバー	CL;江頭 山岡さん、新開さん、 福永さん、田中さん、 森山さん
		報告日	9月11日		
山域	八ヶ岳	山行日	06年 9月 02日(土)		
山名	阿弥陀岳				

山行目的	晩夏の阿弥陀岳(電友会対一部高地トレーニング 兼)	コースタイム(天候:天気図記号)
------	---------------------------	------------------

配布先 集会:10 山行:1 リーダー 原紙:集 会担当者	ルート図(地図を見て正確に)	9月02日(晴) 06:00 ロッジ 発(山岡邸) 06:30 コンビニ(行動食) 07:00 赤岳山荘 09:00 行者小屋着 09:20 行者小屋発 10:00 中岳阿弥陀コル 10:30 阿弥陀岳 11:05 阿弥陀岳発 11:50 行者小屋着 12:00 行者小屋発 14:00 赤岳山荘着 14:40 ロッジ 着

2.5万分の1地図:八ヶ岳西部・東部

山行報告

スキー部で毎年恒例となっている、高地トレーニングを兼ねた山行である。所用のため前夜22:30にロッジ入り、夜空を見上げるときれいに星が出ており、明日の好天を予感させる。

明けて9月2日は僅かに雲もあるが好天であった。コンビニで各自行動食を調達の上、赤岳山荘まで車で入る。好天も手伝ってか、山荘の駐車場は既にほぼ満車、八ヶ岳でもハイライト山域であるだけに人気の高さがうかがえる。美濃戸山荘まで進みトイレ休憩をすませ、南沢の登山道に取り付く。沢に架かる丸木橋を幾度か渡りながら徐々に高度を上げ、苔むした樹林帯の中を行く。花が終わった?コバイケイソウ、咲き始めたトリカブト、アザミなどが見受けられる晩夏のトレイルを行く。行者小屋まであと僅かに迫ると沢が開けた。前方に横岳から硫黄岳にかけての黒々とした山体が展開し、思わずメンバがおもいおもいにその勇姿をカメラに収める。程なく行者小屋に着き、大休止とした。ここからは盟主赤岳が目前に迫る。文三郎道を行く登山者も小さく見える。文三郎道との分岐を左に選び、阿弥陀岳に向かう。しばらく樹林を喘ぐと樹高が徐々に低くなり、日差しがきついが頑張りどころだ。僅かに山腹を巻いて中岳-阿弥陀岳のコルに出るとお目当ての富士山が遠くシルエットを浮かばせ、ここまでの苦労も吹き飛ばす。ここで荷物をデポする登山者も多かったが折角の好天を満喫しての昼食とすべく、我々はザックを背負い阿弥陀岳の急登に行くことにした。高度感のある尾根を詰めて全員山頂に立つ。遠くに北アルプスの槍、穂高、乗鞍、御岳。手前に南ア甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、北岳が展開した。程なくガスが湧き出したが絶景を楽しめた。

むろん目前には中岳を挟んで赤岳が大きく、'360°パノラマレストラン'で昼食を摂ったあと、慎重に阿弥陀岳を下り、往路を赤岳山荘まで戻り山行を終了した。



阿弥陀岳山頂にて

確認
(リーダー)

確認
(リーダー)

江頭
2006.9.11

作成
(報告者)

江頭
2006.9.11

<リーダー所見>

何よりも好天に恵まれた、晩夏の八ヶ岳 阿弥陀岳をメンバ全員が満喫することができた。普段は登山の機会がないメンバも夏の良いところを見てもらうことができ何よりであった。